

## 平成30年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

### 1 日 時

平成31年1月29日（火）午後4時00分～午後5時00分

### 2 場 所

刈谷市役所 503会議室

### 3 議 題

(1) 意見交換 テーマ「今後の特別支援教育について」

### 4 出 席 者

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 市 長                | 竹中 良則 |
| 教育委員会 教育長          | 太田 武司 |
| 教育委員会 委員（教育長職務代理者） | 池田 裕幸 |
| 教育委員会 委員           | 畠 留美  |
| 教育委員会 委員           | 石田 芳加 |
| 教育委員会 委員           | 鶴田 英孝 |

### 5 欠 席 者

なし

### 6 会議構成員以外の出席者及び事務局

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 教育部長              | 長谷川 文成 |
| 教育総務課長            | 加藤 直樹  |
| 教育総務課 課長補佐兼施設係長   | 高野 洋   |
| 総務係長              | 神谷 友理  |
| 学校教育課長            | 木野 昌孝  |
| 学校教育課 特別支援教育係長    | 加藤 重行  |
| 指導主事              | 尾本 国博  |
| 指導主事              | 早川 真由美 |
| 企画財政部長            | 清水 一郎  |
| 企画調整監兼企画政策課長      | 岡部 直樹  |
| 企画政策課 課長補佐兼政策推進係長 | 平野 元章  |
| 主事（書記）            | 青山 景子  |
| 刈谷特別支援学校長         | 神谷 建喜  |

### 7 傍 聴 人

0名

## 1 市長あいさつ

### 刈谷市長 竹中 良則

刈谷市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

昨年を振り返りまして、いろんな施策が順調に推進でき、大変ありがたく思っております。小中学校の各普通教室全てにエアコンの設置が完了し、子どもたちが安心して学べる環境を提供できたのではないかと思っております。そして防犯カメラも目標としておりました1,000台を達成し、1,162台設置をさせていただきました。これからも必要などころには順次増設し、引き続き、安心安全なまちづくりを進めてまいりたいと思います。

なにより、これから説明させていただきますが、4月に刈谷特別支援学校が無事開校いたしました。スタートの1年間ということで先生方には大変ご苦勞をおかけしたと思いますが、本日これまでの様々なことをお伺いできればと思っております。

そしていよいよ3月24日には歴史博物館がオープンいたします。オープンに合わせて企画展として初代刈谷藩主・水野勝成展を開催いたします。3月24日には勝成公のご子孫であります水野勝之様の講演会も予定をしております。ぜひご出席を賜りますようお願いいたします。

それでは、本市を担う若者や子どもたちが夢と希望を持ち続けることができるよう、引き続き私も全力をあげて取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

## 2 議 題

### (1) 意見交換 テーマ「今後の特別支援教育について」

特別支援教育の現況について説明

- ・資料1により「特別支援教育推進体制」について説明
- ・資料2により「刈谷市の特別支援学級等」について説明
- ・パワーポイントにて刈谷特別支援学校の現況について紹介

<以下各委員等意見要約>

#### 池田委員

刈谷特別支援学校は大村知事にもいろんな機会でもPRしていただいている。

特別支援学校は刈谷の先進的な誇れる施設として、これからも育てていっていただきたい。

まずは併設というメリットを生かし、障害のある子どもたちも刈谷の子どもとして素晴らしい教育を受けられる環境をこれからも作っていただき、また、特別支援の子どもたちをサポートするセンター的機能としての役割も発揮していっていただきたいと思う。あわせて、刈谷市周辺のニーズもくみ取り、今後も発展していただきたいと思う。

また、小中学校と特別支援学校の職員同士の交流も今後進めていっていただきたい。

「特別」とついているが、ある意味特別ではなく、障害のある子もいない子も一緒になって学び成長できる環境をぜひとも追求していただきたい。

## 畠委員

たびたびホームページも拝見しており、子どもたちの様々な活動に驚いていた。刈谷特別支援学校が開校し、通学の負担はすごく軽減されたということは周知のことだが、それ以上に特別な体験を通して子どもやご家族が得ているものは大きいのではないかと感じており、さらに生まれ育った身近な環境で継続的に教育を受けられるということはとても心強いことだと思う。施設などのバリアフリーは進みつつある一方、心の面ではなかなか追いついていない部分もあると思うが、今後、特別支援学校との交流を通して、通常学級に通っている子ども、取り囲んでいる社会も、心の面までバリアフリーが進めばと思っている。そういった意味でもこれからもどんどん情報発信をしていただきたいと思います。

刈谷の特別支援教育の中でのセンター的機能という意味で特別支援学校の持つ役割が今後大きくなることを期待している。通常の学級でも発達障害についての認知度が上がり、特別支援教育がどんどん普通になっていく一方で、現場の先生方も戸惑いもあるのではないと思う。そうした際に特別支援学校に専門性をもった先生方がみえて、サポートしてくださるというのはとても心強いと思う。双方向で連携を強めて特別支援教育を支えていっていただければと思う。

## 石田委員

自分は現在、義務教育の子がおり、その保護者との付き合いの中でこれまで自分に届いたいくつかの意見を参考に意見を述べさせていただこうと思う。

以前、特別支援学校と通常の小中学校にある特別支援学級との異なる点は何かという質問を受けた。私が調べたところでは、支援学校は生活上の自立を図ることを目指し、支援学級は個々に合わせた学習教育を行うことを目指している点が最も大きな違いではないかと思っている。現場ではこれらの目的に向かって支援や指導をされていると思うが、周りの理解の必要性を感じたことがあった。

先日、市内の支援学級の支援員と話すことがあり、子どもたちへの思いはとても熱い方だが、子どもたちに対する例え方、言葉選びや言葉遣いがぞんざいであった点で少し悲しい気持ちになったことを覚えている。支援が必要な子どもたちにとって支援学校や支援学級が目指すベクトルは同じでも、支援の過程で丁寧な説明、信頼やコミュニケーション、言葉選びや言葉遣いがとても大切なことだと感じた。

障害を完全に受け入れられているご家族がいる一方で、特に支援学級に通うご家族の中には、なかなか受け入れられず不安ばかりが先に立つ方もおり、特別支援学校の専門の先生方ばかりでなく、支援学級の先生や支援員の方、子どもの成長に影響を与える学校全体として、保護者の気持ちに沿った指導や支援、言葉選びをお願いできればと感じている。

## 鶴田委員

10月に着任し、いろいろ学校を回らせていただいた所感ということでお話しさせていただこうと思う。本日紹介のあった各学校の特別支援学級また特別支援学校について、実際、小垣江東小学校へ伺った際、また各学校における支援学級での指導の様子を見学した際に本

当によくケアしていただいていると感じた。

また、この特別支援学校は併設校ということで大変珍しく、先進的な取組ではないかと思っており、当初おそらく意図されていたであろう、子どもたち同士の交流がこの10か月という期間の中で少しずつ育ち、今ではかなり図れているのではないかと感じた。また、特別支援学級でも本当に子どもたちの状態に合わせ、一人ひとり指導をしていただき、学ぶことの喜びを教えていただいているということは本当にありがたいことだと思っている。これからも特別支援学校、また各学校で得られた成果をぜひアピールしていただきたい。

特別支援学校はセンター機能を担うということで、地域によって特別支援学校に通いたくても家庭の事情で難しい場面もあるかと思うが、これからは横のつながりについても中心となり、刈谷市全体が特別支援を必要としている子どもたちにとって、暮らしやすい、学びやすい環境になればいいと思う。

### **太田教育長**

障害のある子とない子が自然に絡み合っていく併設校ということで、小垣江東小学校の子どもたちの心の成長に期待をしている。そんな中で一つ紹介させていただきたいのが、自宅と刈谷特別支援学校の間にある造園業の社長の奥様の話である。彼女は有名な、バラを育てられている方で、特別支援学校開校後、そこに通う子どもたちやご家族の姿を見て感激し、バラの花束をプレゼントしたいと、彼らの姿のおかげで視野が広がったと私に伝えていただいた。こうした周りの意識の変化はノーマライゼーション社会の礎かなと思い、大変嬉しく思っている。

特別支援学校に寄せる最大の期待は、一人ひとりのニーズに合った教育であり、これは教育の根本だと考えている。そのために一番大切なことは子どもを知り尽くすことであり、全てを知ることは難しいが、「この子はどういう子なのか」と、1歩でも2歩でも知ることで本当の教育を展開できるのではないかと思っている。そのために、小垣江東小学校と刈谷特別支援学校での取り組みを広くPRしていきたいと思う。これからも特別支援学校を中心とした教育に期待していきたいと思う。

### **刈谷市長**

質問やご意見はあるか。

### **太田教育長**

神谷校長先生にお尋ねしたいが、刈谷特別支援学校の先生方が併設していることについて今までにない経験や感動はあったか。

### **神谷特別支援学校長**

ずっと特別支援学校勤めをしてきてもう30何年になるが、実際に併設校を経験して当たり前だけ気づかなかったことは、子どもたちの声である。今までの県立の特別支援学校は独立しているため、周りの子どもたちがどのようなことをしているのかを経験することはな

かった。しかし、刈谷特別支援学校の子どもたちは、毎朝小垣江東小学校の子どもたちの元気な声と大きな歌声が聞こえてくる環境におり、これは本当に素晴らしいことだと感じている。科学的な根拠はないが、子どもたちの声が聞こえてくると、どんなに障害が重くてもみんなが笑顔になる。自分はこのような環境こそが障害のある子にとって素晴らしく、このような環境で教育できることが素晴らしいと思っている。小垣江東小学校の子どもたちにとっても自然に障害のある子どもたちと過ごす環境が作られているので、本当に職員も予想していなかったことが起こっているということが正直なところだと思う。今後もっといろんな気づきをして教育に繋いでいけたらと思っている。

### 刈谷市長

私の感想として、開校以来多くの皆さんから喜びの声や感謝の声を耳に届けていただき、その中で関係の皆様方には本当に一生懸命やっただけでいることに感謝している。ただ、ハード面の整備は刈谷市でできるが、今回いろんな角度からお話をいただいたソフト面の充実については、先生方をお願いすることとなるので、神谷校長先生以下関係の皆様方につきましては、これからもご尽力いただき、全国に無いような支援学校にしていだけたら大変ありがたいと思っている。皆様に本当に心からの感謝を申し上げたいと思う。

今回は「特別支援教育について」というテーマのもとに皆様の様々な思いや忌憚のないご意見等伺いをさせていただいた。皆様には日ごろから本市の学校教育、特別支援教育についていろいろご支援いただいていることに改めて感謝を申し上げたいと思う。引き続き来年度以降も、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。